

大和まな

中国から渡来したツケナ(漬け菜)は、奈良時代初期に書かれた「古事記」に「菘」と記載があるように、わが国の野菜の中で最も古い野菜のひとつである。その後、全国に広まり各地に独特の品種が成立していった。その一つ「大和まな」は原始型に近い品種とされ、葉は大根葉に似た切れ込みがあり、濃緑色、肉質柔らかく、甘みに富む。

1. 特徴

「大和まな」は、なたね(あぶらな)群に属するツケナで、ツケナ類の中で原始型に近い品目とされている。葉は頭葉部がだ円形で、葉身部にはだいこん葉に似た欠刻がみられる。葉色は緑で、シロナより濃く、コマツナよりは浅い。根は生育につれて基部が肥大し、カブに似たくさび形になる。県内で栽培されているものには複数の系統が存在する。



写真1. 形状

2. 生理生態特性

(1) 発芽特性

15～35℃、1～3日で発芽する。

(2) 休眠

種子は成熟にともない休眠に入る。休眠は1～5℃で2～3日間低温処理を行うと打破される。

(3) 養分吸収特性

生育適正酸度はpH5.0～7.0程度で、比較的酸性の土壤に強い。チッソとカリの要求量が強く、チッソが生育初期に不足すると順調に生育しない。

(4) 耐寒性

寒さには強く、霜や寒気にあうと甘みが増し、独特の風味と柔らかさをもつようになる。これは低温によって、糖含量が急激に増加するためである。気温が高くなると苦みが強くなるため、12～2月どりが旬である。

(5) 花芽分化

日長よりも温度の影響が大きく、3～13℃で誘導される。低温感受性は生育のステージが進むにつれて高まる。

(6) 抽台

同じアブラナ科のコマツナ、シロナ等より早く、越冬株では3月から始まり、4月に一斉に開花する。

3. 作型(栽培適期)

露地栽培の12～2月どりが作りやすく、独特の風味が味わえることから、栽培適期である。

時期	10			11			12			1			2		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
平坦															
中山間															

図1. 大和まなの栽培適期(播種 収穫)

播種期が10月より早いと降霜期までに生育過剰となり、11月以降の播種では低温により生育が停止し、3月以降に十分生育しないまま抽台するので、その年の気候条件に注意して播種期を決める(参考:表1)。10月下旬播種では収穫は1月以降になり、寒冷な時期であるため、収穫期間を1ヶ月ほどかけても茎葉の徒長や抽台の心配はない。

4. 栽培

(1) 土づくり

10aあたり2tの堆肥を施用し、保水性、排水性を良くする。酸性には強いが、圃場が酸性化している場合は石灰類を施用して酸度調整を行う。

(2) 施肥

低温期の栽培で肥効が遅れるため元肥主体の全層施肥を行う。施用量はチッソ分量で、10aあたり10~15kgが目安である。肥料は肥効期間の長い有機質肥料と、速効性の化成肥料を併用し、生育後半まで肥ぎれさせないようにするとよ

い。前作の肥料が残っている場合は施用量を減らす。肥ぎれによる生育低下のおそれがある場合は、本葉2~3枚頃に、NK化成や液肥で追肥する。

(3) 播種

播種時期は、平坦部で10月中旬から11月上旬、中山間部では10月中旬から下旬である。栽培面積が大きい場合は、播種機等を用いて条まきし、発芽後に間引く。条間は15~20cmとし、種子が見えない程度に覆土を行う。べたがけ資材を利用すると発芽や生育が安定する。



写真2. べたがけ栽培

(4) 間引き

発芽数が多い場合は、本葉1.5枚頃に株間5～7cmに間引く。

(5) 病害虫防除

低温期の栽培では、病害虫の発生は少ない。登録農薬が少ない(野菜類に登録のある農薬のみ使用できる)ので、害虫の発生が多い時期には防虫ネット等で侵入を防ぐ必要がある。気温の高い時期に播種すると、ヨトウムシやべと病、立枯病が発生しやすくなるため特に注意が必要である。



写真3. 防虫ネットの利用

(6) 収穫・調整

本葉5～6枚、草丈25～30cmを目安に収穫する。本葉4枚程度の若い株は根の肥大が少ない。大和まな独特の風味をだすためには、低温にあわせてから収穫する。収穫後、下葉や黄化葉を取り除き、結束または袋詰めして販売する。

表1. 大和まなの生育日数の季節変化と各作型における抽台の有無(2005～2006年)

播種日	草丈 25～30cm での収穫日	生育日数	備考
4月14日	5月12日	28	
6月16日	7月8日	22	
8月17日	9月8日	22	
9月15日	10月8日	23	
10月12日	11月10日	29	
10月19日	11月26日	38	
10月26日	12月28日	63	
11月2日	2月14日	104	
11月8日	-	-	抽台
12月8日	-	-	抽台
1月4日	-	-	抽台
2月2日	-	-	抽台
2月28日	-	-	抽台
3月7日	4月26日	50	
4月4日	5月11日	37	
4月26日	5月30日	34	
5月25日	6月19日	25	
6月16日	7月17日	31	

調査場所: 農業総合センター露地圃場(橿原市)

表1のように、11月中旬～2月の播種では生育が停止し、収穫できる大きさにならずに抽台してしまう。べたがけ資材の利用や抽台の遅い系統の選抜により周年栽培している事例もある。



発芽



収穫株



間引き後



調整



収穫直前



結束

写真4. 栽培の様子